

第4回 2011年7月出発 参加者 ●藤原 健志さん、ホスト：漢陽大学校

1. 応募したきっかけ

以前から学会や観光などで何度か韓国に行ったことがあり、韓国文化に興味を持っていました。そんな時に、昨年の参加者である後輩に韓国での体験談を聞き、また彼の研修後の明らかな成長ぶりを目の当たりにして、このプログラムが自分自身のこれから研究生活に大きなプラスになるだろうと考えて応募を決めました。

2. 事前準備

研修前に1度韓国でホスト先の教授とディスカッションを行いました。そのとき、ホスト研究室の研究設備や研究内容について教えていただき、韓国での研究内容を決定しました。それ以外には、研究に必要な材料などの手配を行いました。

3. 現地研修

文化研修としては、SIメンバーでキムチ作りや歴史学習などを行ったり、休日を利用して韓国の友人とともにさまざまなところに観光したりしました。日本と同じところや違うところを多く発見することができ、とても有意義でした。

研究研修としては、ホスト研究室の持つ技術を一から教えていただき、そのうえで私の持つ技術を披露し、お互いの技術を組み合わせた新たな研究を取り組みました。その研究により新たな知見を得ることができ、今後も継続して共同研究していきたいと考えています。

4. この研修を通じて得たもの

研究面では、さまざまな研究を体験させていただいたことを通じて自分の研究に対して新たな考え方を持ったり、新たな技術を習得したりすることができました。

生活面では、韓国語と英語のスキルアップはもちろん、外国文化に触れることによって日本文化の良い面も悪い面も再確認することができました。

ただ、今回の最も大きな収穫は研究・生活を通してコミュニケーションの幅を大きく広げることができたことだと思います。これからもこのネットワークを大切にし、さらに広げてい

きたいと考えています。

日本ではこの研修で得たものをうまくフィードバックしていくならと考えています。

5. 参加する人へのアドバイス

外国での研修になるのでみんな少なからず不安な気持ちを持っていると思います。ただ、韓国は他の国に比べて気候も文化も非常に似ていて、さらにみなさん快く迎えてくれるので、そんな不安は実際に韓国へ行くとすぐに無くなってしまうと思います。したがって、心配する必要は全くありません。韓国研修を最大限に楽しむために計画を立てておくだけで大丈夫だと思います。あと、韓国語は話せなくても特に問題ないですが、少し話せるだけで非常に喜んでもらえるので時間に余裕があれば少し勉強しておく良いと思います。

この研修はただの観光などでは体験することのできない様々なことが体験できる絶好の機会だと思います。ぜひ最大限に韓国を楽しんでください。

